

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 9月 6日 更新

事務事業名		子どもの読書活動推進事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	福祉の健康			所属部	教育委員会事務局	課長名	栗木 清智
	施策	4	子育て支援の充実			所属課	生涯学習課	担当者名	境 真奈美
	施策の柱	17	地域における子育て支援			所属班	生涯学習班	(内線)	1505
予算科目		会計一般	款10	項5	目8	事業連番10600	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑥ コスト削減優先度評価結果 : ⑨	
終了、開始年度		☐ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	* 子どもの読書活動推進法が平成13年12月に制定され、各自治体での読書活動の推進が義務づけられた。 * 24年度予算から紙芝居実施事業、春の夜の図書館読書探検隊、夏休みスペシャルおはなし会、お父さんお母さんのための読み聞かせ塾、あかちゃんのためのおはなし会、あかちゃん講座等の事業を統合した。 * 24年度予算から事業名を「子どもの読書活動推進講座実施事業」から「子どもの読書活動推進事業」に変更した。 平成29年度より合志市立図書館の指定管理者制度が導入されるため、主な事業は指定管理に移行され、「子ども読書活動推進計画策定」と「合志市童話発表大会」の2事業のみ市の事業とする。
【業務の流れ】	合志市童話発表大会開催（発表者選考依頼・審査員依頼・会場準備・実施・郡市大会へ推薦） 子どもの読書活動推進計画策定（策定委員会委嘱・会議開催・アンケート実施・推進計画策定）
【主な予算費目】	推進計画策定委員報酬・費用弁償、文書送付（役務費）、 童話発表大会審査員謝礼・発表者記念品（報償費）、賞状用紙購入（消耗品費）、
【意見や要望】	児童の増加に伴い、発表児童数が増え、半日で童話発表大会を終了することが困難になっているので、各学校の代表児童数を見直す必要がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO) 合志市童話発表大会を実施した。「第3次合志市子ども読書活動推進計画」を策定した。		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 合志市童話発表の実施
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 人	予算の主な増減の理由
→ ア 合志市童話発表大会発表児童数	人	子ども読書活動推進計画(第3次)完成による、報酬・費用弁償・通信費の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	(単位) 人	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
→ ア 合志市内の乳幼児から小中学生・家庭、学校・幼稚園・子どもに関わるすべての大人	人	→ ア 合志市民
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) %	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
→ ア 乳幼児からすべての大人が、子どもにとっての「読み聞かせ」や「手遊び」などにふれあい、積極的に子どもの豊かな心を育むようにする。子どもが自発的に読書に取り組んだり、お話しの世界に触れることにより読書への興味・関心を高める。	%	→ ア 子どもの読書活動推進計画実施調査の「出来た」の割合
* ③ 成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠 ・ 講座参加者数より、合志市内在住の子どもや保護者等が、豊かな言葉や感性を磨くことの大切さや、読書の意義について学ぶ機会を得たか把握するため。 ・ 周知方法の改善により多くの参加が望まれるため。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	30年度 目標(当初予算)	31年度 予定	32年度 見込	33年度 見込	
① 活動指標	人	人	22	22	22	22	20	20	20	20	
② 対象指標	人	人	58,474	61,022	60,900	61,652	61,500	62,000	62,500	63,000	
③ 成果指標	%	%	100	100	100	90	100	100	100	100	
投資 入 費 量	事業 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	209	128	206	123	18			
	(A) 事業費計	千円	209	128	206	123	18	0	0	0	
		(A)のうち指定経費	千円	50	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	50	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	5	6	0	2	0	0	0	0
		延べ業務時間	時間	950	1,324	0	110	0	0	0	0
		(B)人件費計	千円	3,527	0	0	435	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,736	128	206	558	18	0	0	0	

事務事業名	子どもの読書活動推進事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度的事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 市内の小学生在が読書を表現豊かに暗唱し、子ども読書活動の推進につながった。
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 第三次子ども読書活動推進計画に基づき、各種団体に取り組んでもらうよう啓発を続けることで目標達成の見込みあり
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 子どもの読書推進活動は、すべての学校・園で実施しているが、その内容を充実していただく必要がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似の目的（対象と意図）を持つ事業が他にない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の予算で実施しているため削減の余地なし
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 図書館・学校と連携し実施したためこれ以上の削減はできない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 余地なし
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 図書館・学校と連携し実施しているため適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

子供の読書推進活動は全校・全園で実施している。今後はその内容を充実させるよう啓発していきたい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☒ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

内容を充実し継続

(2) 改革・改善による期待成果

(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策